

# 第3章 各教科等のポイント

## (1) 幼稚園教育要領 学びのスタートとしての幼児期の教育

### 幼児期の教育から小学校教育へのバトンパス ～子どもの育ちと学びをつなぐ～

幼稚園等では、幼児期の教育が小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることを意識して、幼稚園教育要領等に基づき、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培います。

小学校では、幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を行い、児童が自己を発揮しながら学びに向かうことができるようにします。

この幼児期の教育から小学校教育へのバトンをうまくつなぐためには、まずは幼稚園教育要領等の内容についての理解が大切です。

### 幼児期の教育で育みたい資質・能力

資質・能力は、各幼稚園等が幼児の発達の実情や幼児の興味・関心等を踏まえながら展開する活動全体で育むものです。実際の指導場面では、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」を個別に指導するのではなく、遊びを通した総合的な指導の中で一体的に育むように努めることが重要です。

📖 幼稚園教育要領解説 p.50～51

#### 知識及び技能の基礎

豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする。

#### 思考力・判断力・表現力等の基礎

気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする。

#### 学びに向かう力、人間性等

心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする。

#### 知識及び技能の基礎

- ・ 基本的な生活習慣や生活に必要な技能の獲得 ・ 身体感覚の育成
- ・ 規則性、法則性、関連性等の発見
- ・ 様々な気付き、発見の喜び
- ・ 日常生活に必要な言葉の理解
- ・ 多様な動きや芸術表現のための基礎的な技能の獲得 等

#### 思考力・判断力・表現力等の基礎

- ・ 試行錯誤、工夫
- ・ 予想、予測、比較、分類、確認
- ・ 他の幼児の考えなどに触れ、新しい考えを生み出す喜びや楽しさ
- ・ 言葉による表現、伝え合い
- ・ 振り返り、次への見直し
  - ・ 自分なりの表現
  - ・ 表現する喜び 等

#### 遊びを通しての総合的な指導

- ・ 思いやり ・ 安定した情緒 ・ 自信
- ・ 相手の気持ちの受容 ・ 好奇心、探究心
- ・ 葛藤、自分への向き合い、折り合い
- ・ 話し合い、目的の共有、協力
- ・ 色・形・音等の美しさや面白さに対する感覚
- ・ 自然現象や社会現象への関心 等

#### 学びに向かう力、人間性等

幼児期の教育から ↓ 小学校教育へ

三つの円の中で例示されている資質・能力は、五つの領域の「ねらい及び内容」及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から、主なものを取り出し、便宜上分けたものです。

「スタートカリキュラム」を通じて、各教科等の特質に応じた学びへ

## 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」 ～幼児期の教育から小学校教育へ～

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、5領域【健康】【人間関係】【環境】【言葉】【表現】のねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の幼稚園等修了時の具体的な姿です。

○ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が、到達すべき目標ではないことや、個別に取り出されて指導されるものではないことに十分留意する必要があります。幼児の自発的な活動としての遊びを通して、一人ひとりの発達の特성에応じて、これらの姿が育っていくものであり、全ての幼児に同じように見られるものではないことに留意する必要があります。

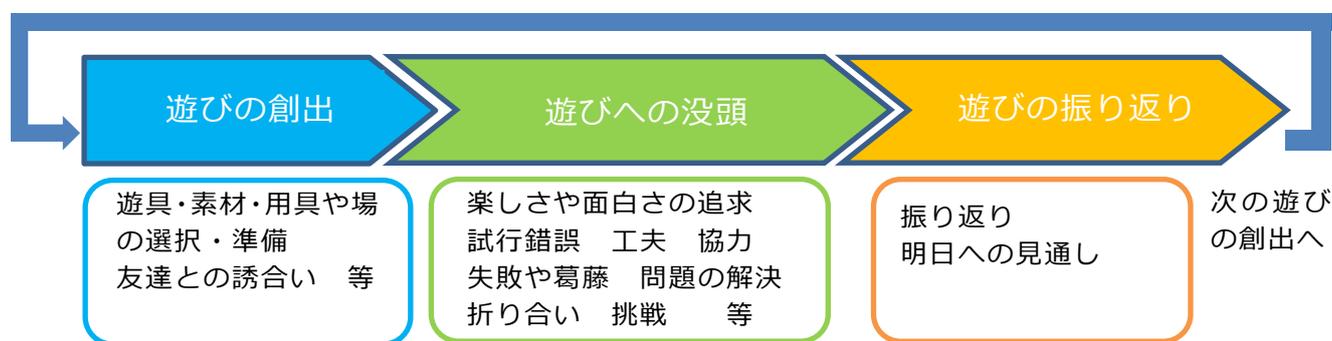
○ 幼児期の教育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、幼稚園の教師等と小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めることが大切です。

☞ 幼稚園教育要領 p.17 小学校解説 総則編 p.73～74

## 主体的・対話的で深い学び ～どのように学ぶか～

幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習です。

### 《遊びのプロセス例》



幼児一人ひとりの行動の理解と予想に基づいた意図的・計画的な環境の構成  
 幼児期にふさわしい生活の展開 遊びを通じた総合的な指導 一人ひとりの特色に応じた指導

環境を通して行う教育

☞ 幼児教育部会における審議の取りまとめについて(報告)